

## 第9回 高円寺地域における新しい学校づくり懇談会会議録（要旨）

会 議 名	第9回高円寺地域における新しい学校づくり懇談会
日 時	平成27年2月26日（木）午後2時～3時35分
場 所	杉並第八小学校 図書室
出 席 者	懇談会委員26名（欠席3名）
傍 聴 者	5名
次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域防災について</li> <li>2 学童クラブについて</li> <li>3 特別支援学級について</li> <li>4 3校の交流活動について</li> <li>5 その他</li> </ol>
資 料	資料1 高円寺地域における新しい学校に設置する特別支援学級について

会長	<p>ただいまより第9回高円寺地域における新しい学校づくり懇談会を始めさせていただきます。中島委員と石井委員、横山委員からは本日欠席というご連絡を頂戴しております。よろしく願いいたします。あとは、横田委員はまもなく参ります。あと、傍聴の方がいらっしゃっておりますので、よろしく願いいたします。では、まず配付資料の確認をさせていただきます。</p> <p>（配付資料確認）</p> <p>それでは、資料の確認が終わりましたので、次第の1番から始めさせていただきますと思います。次第の1番は、「地域防災について」でございます。</p> <p>これまで、新しい学校づくりの考え方につきまして、皆様方と意見を交換しながら進めてまいりました。その中でも、防災に関するご意見というのはさまざまいただいているかなと感じております。本日は、防災課から職員がおいでいただいておりますので、皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。</p> <p>それでは、防災課長からお願いできますでしょうか。</p>
防災課長	<p>皆さん、こんにちは。区役所の防災課長をしております高山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、こちらの新しい学校づくり懇談会に参加させていただき、ありがとうございます。会長からお話がありましたように、この懇談会で防災の意見が出ていることにつきましては、把握はしているところでございます。</p> <p>本日は、初めてということで顔合わせの意味もございますが、直接皆様の意見を伺い、今後議論を深めていくためのきっかけになればと考えております。</p>

	<p>今まさに、新泉・和泉地域で、新泉小、和泉小、和泉中による小中一貫教育校が新たに開校する中で、防災の観点で地域の方からさまざまなご意見をいただいております。新泉・和泉地域も道路が狭くて、そういった意味では、こちらの地域の特性と似ているようなところもあります。</p> <p>皆さんの意見をなるべく尊重して、地域の防災について安心できるような形がとれればと思っておりますので、皆様から本当に忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
会長	<p>今、防災課長からご説明いただきましたが、地域防災としての拠点となる学校施設に求められるものは一体何であろうかと。また、配慮する点についてはどんなところがあるのでしょうか。質疑、またはご意見がある方がおりましたら、お手を挙げていただきたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。</p>
委員	<p>お願いを含めての発言になります。まず、小中一貫教育校ができて、建物、グラウンド、それから、杉四小の敷地を含めて、そこが高円寺の北側地域にあって、ここが防災拠点になることは間違いない。ただ、具体的な内容はこれから詰めていくのかなど。いろいろな防災や震災救援所の機能だとか、これまで培ってきた資料をもとにでき上がることだと思っています。</p> <p>ここからが要望になります。高円寺中央町会の北半分、あるいは氷川町会、パル商盛会という、北側によった地域は、杉四とか馬橋公園とか、一時避難所が考えられます。ところが、問題となるのは、南側です。青梅街道に至るまでの地域ですが、今現在は杉八小がちょうどこの地域の中心点にあるということから、震災救援所としては適当な土地です。ここを拠点にしておけば、蚕糸の森にせよ、和田に行くにせよ、一時非難所としては、この場所であり、この広さが必要。</p> <p>については、新校の防災のつくり方とともに、南側地域の人々が生き残れる方法を考えていただければと。狭い道路における火災ということで、阪神淡路の被災状況と同様のことが起きたとき、この地域の安全ということは十分にご配慮いただきたいということです。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかにもございますか。ほかの意見をいただきながら、課長からのコメントも頂戴できればと思います。</p>
委員	<p>前回の第8回のときに、ある程度の新しい学校づくりの基本的な考え方というのを煮詰めまして、案というよりも、それをベースに考えていくという認識であるかと思っております。</p> <p>その中で、安全性が高く地域防災の拠点となる学校ということで、さまざまな面を網羅してきたと思うのですけれども、これをベースにした、この高円寺地域、この新しい学校において、防災課としての何か策というか、考え方が、今現在であるのかなのか。多分そういったものが出てこない、委員の皆さんは、素人が多いですから、具体的な議論にもちょっとならないのかなと感じました。その点、お聞かせいただけますでしょうか。</p>
防災課長	<p>今の段階では、具体的な案などについて何かご説明するにはまだ至っていない中で、先ほど申し上げた新泉小学校の跡地は、施設再編の中で、特別養護老人ホームの計画があります。しかし、防災の拠点として、今お話にあった空地の確保、避難</p>

	<p>する場所を確保する予定があり、あとはもう1つ、先ほど言ったソフト面、震災救援所運営連絡会が活動していますけれども、それについては建物がある限りは継続したいという意向があります。</p> <p>これらについては、今後、高円寺地域を考えていくときの大きなポイントになります。また、こちらから新泉・和泉地域を参考に問題提起させていただいて、こちらの学校はどういうような形でやっていけばいいかと意見を伺いたいと思います。</p>
委員	<p>では、まだこの懇談会の中で、地域の方の意見とか、考え方、そういったものを要望も含めて出していきながら、行政のほうとしても一緒になって考えていただくという理解でよろしいでしょうか。</p>
防災課長	<p>こちらの懇談会だけではなく、震災救援所運営連絡会の活動もしていただいていますから、そういったところからいろいろ意見をいただいて、総合的に考えていきたいと考えております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。ご要望も含めてご意見いただきながら、また今後考えを深めていきたいということです。ほかにもこの場を出していただければと思うのですけれども、いかがでございましょうか。</p>
委員	<p>地域防災ということで、地域のつながりがすごく大きいと思うんです。学校を中心とした地域というものだと思いますが、残念なことに、高円寺中地域の町会長さんと、杉四小地域の町会長さんがいらっしゃいません。できれば、その辺を加えて、町会の防災会の会長は町会長ですから、その辺の意見をいろいろ聞いていただいたほうがよろしいかと私は思います。</p>
学校支援課長	<p>先ほど、いろいろな場面でお話を聞きますというところで、当然高円寺北地区町連さんにも伺ってまいります。また、震災救援所でそういった方も入っていらっしゃいますので、そういったところでも意見交換していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。今後とも防災会のほうの声も聞きながら進めていければと思います。</p> <p>ほかにはいかがでございましょうか。</p>
委員	<p>ことし小中一貫教育校になる学校があると聞いたんですけれども、その学校は、3つが一緒になるんですか。</p>
学校支援課長	<p>そうです。</p>
委員	<p>そうすると、その跡地というのは、今のところどうなる予定ですか。</p>
学校支援課長	<p>今回の小中一貫教育校は和泉中と和泉小の校地が並んでいますので、そこを活用して開校します。新泉小の跡地には、特養ホームが入ると、近くに専修大附属高校がありますので、そこへの借用を考えています。</p>
学校教育担当部長	<p>専大附属にはグラウンドを使っただいて、いざというときには避難できる場所としても機能するような形での使用ということで考えております。</p>
委員	<p>避難所としても使えるということですね。</p>
防災課長	<p>一部校舎と体育館が残るので、今までの震災救援所と同様に校舎と体育館を使って活動ができます。</p>
委員	<p>そうですか。わかりました。</p>

会長	<p>新泉小のケースについてご説明いただきました。</p> <p>ほかはいかがでしょうか。</p> <p>では、この件につきましては、この後も継続して考えていかなければならない内容かと思っておりますので、何かお気づきの点がありましたら、事務局にお伝えいただけると大変ありがたいと思っております。質問もあれば、事務局経由で防災課に問い合わせていきたいなと思っておりますので、お知らせいただければと思います。</p> <p>それでは、次にいきたいと思っておりますが、防災課長、ありがとうございました。</p>
防災課長	<p>引き続き、懇談会にも防災課も参加させていただきますので、よろしくお願いたします。ありがとうございました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次第の2番目になります。「学童クラブについて」です。新しい学校づくりの基本的な考え方には、学童クラブの設置の記載がございます。本日は、所管されております児童青少年課に来ていただきましたので、委員の皆様のご意見を伺っていきたいなと思っております。</p> <p>最初に、児童青少年課長からご説明いただけますでしょうか。</p>
児童青少年課長	<p>改めまして皆さん、こんにちは。日ごろからお世話になっております。どうぞよろしくお願いたします。本日はお時間をいただきまして、少しご説明をさせていただきます。</p> <p>今般、この小中一貫教育校として新しい学校ができるに当たりまして、学童クラブを学校の中へということで、これまでの懇談会の中でも、もうお話があったかと思っております。</p> <p>この杉四、杉八エリアに対応する児童館・学童クラブは、高円寺北と高円寺中央になります。これらの学童クラブが学校内へ移転することになります。</p> <p>今現在、この2つの学童クラブは、総数でいうと100名前後が通っています。その学童クラブの需用が現在伸びているというのが、皆様もご承知かと思っております。ただ現状で申し上げますと、このエリアだけのことで申し上げますと、現状登録児童数についてはほぼ横ばいの状態です。</p> <p>そうはいつでもこれから先、学童クラブの需用というものは、保育の需用も相まって伸びていく。こうしたことも踏まえまして、それ以上、今現在通っている児童数を超える数をお預かりできる定員数、これを確保していく必要があろうというふうに考えてございます。それもあって、一定程度の面積を確保したいと考えております。</p> <p>あわせて、学童クラブは学校内に整備しているところが多数ございます。これから4月に開校する小中一貫教育校、杉並和泉学園におきましても学校内への整備をしております。28年度の外構工事で最終的には全てが整うのですけれども、その時点で申し上げますと、おおむね150名程度の定員となっております。高円寺地域もほぼ同規模というふうに考えています。</p> <p>学童クラブを学校内に整備するに当たりましては、さまざま配慮をさせていただきます。学童クラブの育成室は、基本的に畳敷きと床張りの、静的空間と動的空間というのを2つつくっています。あわせて、出入りできる場所を学校の昇降口とは別にしまして、きちんと子どもたちでいうスイッチの切りかえができるような</p>

	<p>出入り口の配慮。また、家庭的な雰囲気の中で子どもたちをお預かりできるようにということで、中に入ってからの環境づくり、学校とは全く異なるような空間づくりをするように、内装等の配慮もしているところです。</p> <p>こうしたさまざまな配慮の中で、学校内への整備を図っていくということを基本にしながら今までもやってまいりました。これから先、この高円寺地区の新しい学校づくりにおきましても、そうした配慮をしながら設計のほうに入らせていただきたいと思いますと考えているところでございます。</p> <p>この高円寺地区につきましては、学校内に入っているところが実際にはないわけでございますので、そうした実経験というものが、恐らくこのエリアにお住まいの方々の中にはいらっしゃらないと思います。身近にそういったところがあればまたイメージも湧くのかなというふうに思うのですけれども、そうでない方々もいらっしゃると思いますので、学校内に入ることについてのご意見、ご要望がありましたら、それをお伺いして、今後の設計等に生かしてまいりたいというふうに考えているところでございます。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。学校内に学童クラブをということで、配慮するようなところを設計に入れていこうということでご説明を頂戴しました。質問を含めまして、ご意見、ご要望がある方から挙手をしていただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>学童クラブは多分4クラスぐらいになるかなと思います。1クラス大体40名ぐらいですか。</p> <p>新泉、和泉のほうで150名ぐらいということは、大体4クラスぐらいになると思うのですけれども、この後の次第にある特別支援学級ですが、特別支援学級をつくるということになると、学童と特支を一緒にというか、またそれはそれでまた別にクラスを設けるということはあるのですか。通常学級のみ学童ということですか。</p>
児童青少年課長	<p>学童クラブでは、特別支援児童ということで、今現在も、その学童クラブの枠の中で、いわゆる障害をお持ちのお子さんもお預かりをさせていただいています。</p> <p>ですので、今後のその運営に当たっても、例えば150名ということであれば、その150の枠内で特別支援のお子さんたちも一緒にお預かりをしていくような考え方でいます。</p> <p>この高円寺北に関しては、また特殊な事情があって、重度重複障害児の方をお預かりしているのです、それは別枠というふうに考えているので、そうした配慮は今後もしていくことは必要かとは思っています。</p>
委員	<p>そうすると、職員自体も、特別支援も含めて考えると、人数が多くなるということではよろしいのですか。</p>
児童青少年課長	<p>職員の体制ですか。学童クラブには、人数に応じて職員配置しています。それはそれとしてまず配置があって、特別支援をお預かりする場合、その児童については、介助度、これは保育でもあることですが、加配をしています。その障害をお持ちのお子さんの程度に応じて職員を一定程度加配するという対応をさせてもら</p>

	っています。
会長	ありがとうございます。ほかにはいかがでございましょうか。
委員	この4月ぐらいから、受け入れが今までは低学年向けだったのが、場所によっては高学年まで受け入れするように変わっていくという話を聞きましたが、杉並区でも、やはり定員に余裕があれば、高学年まで、今後は受け入れていく、それを見込んでの150人想定ということなのでしょうか。
児童青少年課長	<p>今度の4月からですけれども、児童福祉法という法律が改正されます。これまで学童クラブの対象はおおむね10歳となっております、自治体の多くは3年生までになります。杉並は4年生までお預かりしていたのですが、この法律が改正されて、「小学生」ということで、5、6年生まで対象となります。なので、これは日本全国一律に対象児童としては小学生全体になります。杉並区もこれは同様ですので、来年度4月から、5、6年生も対象にしています。ただ、やはり低学年を中心にお預かりする。それは優先順位というか、子どもたちの自立度の問題もございしますので、低学年児童を優先して入れるような形をとらせていただきます。その余裕次第ではありますが、できる限りの数をお預かりしたいというふうに思っていますので、5、6年生でもきちんと申請があつて、要件を満たしている方々であれば、可能な限り受け入れをしています。</p> <p>この間も、需要の増もありますし、5、6年生の受け入れということも視野に入れ、一部の児童館については、受け入れを増やすために改修もさせていただいています。それから、学校の中につくるに当たっても、そうしたことも見越して、枠を広げるような形をとらせていただいています。</p> <p>今回の高円寺につきましてもほぼ同様な考え方でいます。需要が伸びる、5、6年生も一方では考えなければいけないということで、5、6年生を預かることの是非は、多分意見があると思うんですけれども、希望する、お預かりしなければならないお子さんであれば、それはお預かりできるような一定程度の余裕を見て整備をしていく。それがあつての150人とお考えいただければと思います。</p>
委員	ありがとうございます。
会長	ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。ご意見、ご要望も含めて何かございましたらお願いできればと思いますが。
委員	<p>通学区域全体の、北東の隅に新校の土地があるわけで、学校に学童が設置されてあるということになると、南側のほうにいる児童には、ちょっとつらいような気がします。</p> <p>例えば、5時、6時、あるいは夜かもしれません。その時間に、環七の向こう側の、今の高中の敷地からこちらまで帰って来る。通学距離が伸び、その通う道にも不安がある。働いていらっしゃる親御さんが、子どもを預けているのでしょから、迎えに行くと言っても、さほど自由ではない。余りにも端っこに偏り過ぎているから、預けにくいという思いをされる。今は中央児童館ですから問題ないですが、学童クラブがこの距離感という説明が、やっぱり必要になるのかな。実際に、時間的に子どもたちが通える距離なのか。夕方、夜分、妥当な明るさの中で移動できるのか。危険度はないのか。子どもが巻き込まれる事件が、この地域で起きてはまずい。</p>

	<p>ならば、目の届く範囲という考え方もあるんじゃないかと。</p> <p>施設再編の中で、東児童館も中央児童館も、あとは中央会議室もそうでしょうけれども、公共的なものが消えていくとき、心配になるんです。</p> <p>ですから、小さい子たちの安心安全を保障できるような考え方というのを十分できてからでないと、一気に新校にと言われても、箱はできているけれども、通う子どもたちのありようが難しいのかな。その解決というか、考え方を詰めていきたくないというふうには思います。</p> <p>極論のことを申しますと、例えば、中央児童館がなくなるとします。杉八小がいずれ跡地になります。杉八小跡地に第二学童クラブのようなものをつくって、区の職員をそこに配置できて、そういう方が公の方としていらっしゃるとすれば、防災拠点として、震災時の一時避難所としての運営機能、拠点になれると思います。防災の絡みも含めて、第二の学童という夢のようなことを言っていますが、検討の余地はないのかなということで、要望です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ご意見として伺っておきます。ほかにも、そのようなことも含めてございましたら。せっかくの機会ですので、出していただければと思います。</p>
委員	<p>高円寺北児童館では、先ほどもおっしゃったように、重度のお子さんの、確か小学6年生まで預れるというシステムがあって、杉四ということではなくて、ほかの地域の小学校に通うお子さんも来られているかと思うんですけども、新校の中に学童クラブができる場合、例えばほかの学童クラブにその機能を移すだとか、それとも、今ある機能をそのまま新校に移すというか、どのような考えでいらっしゃるのでしょうか。</p>
児童青少年課長	<p>現時点で申し上げますと、その重度重複のお子さんも含めて、新校への移転を考えています。</p> <p>実際に学校内にある学童クラブですが、その当該校のお子さんだけではなくて、現実には私学のお子さんであったりとか、学区外のお子さんが通っていたりもします。そのために、専用門というか、出入りをする際の門のあり方、そうしたところまでを配慮させてもらっています。</p> <p>実際には、今までの整備の流れから申し上げますと、そうした学区外から来るお子さん、それから、このエリアの中で、この学校に通っていないお子さんもお預かりすることも想定した整備をしていくという考えでいます。</p>
委員	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。新校に在籍するしないではなくてというお話でございます。ほかにはいかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。先ほどの防災の件と同様、この学童クラブについても、今後また意見交換やら、いろいろな討論を重ねながら深めていくようなところになるかと思っておりますので、今いただいたご質問やご意見を伺いながら、今後も考えていきたいなと思っております。</p> <p>それでは、課長は、この後公務のため、ここで退席いたしますが、ご了解いただければというふうに思います。今日はありがとうございました。</p>

児童青少年課長	<p>また今後ともどうぞよろしく申し上げます。 ありがとうございました。</p>
会長	<p>それでは、次の次第、3番目になります。「特別支援学級について」です。特別支援学級についても、計画や基本的な考え方に明記されている重要な項目になっております。資料につきまして、特別支援教育課長がお見えになっておりますので、ご説明いただければというふうに思います。よろしく申し上げます。</p>
特別支援教育課長	<p>どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>まず、A4の資料から説明します。「高円寺地域における新しい学校づくり計画」、こちらに基づきまして、特別な支援を必要とする児童・生徒に対しまして、小学校から中学校まで一貫した教育が行える特別支援学級を設置してまいりたいと思っております。</p> <p>設置する特別支援学級の内容でございますが、候補として2つほど考えてございます。</p> <p>まず1番目には、知的障害の特別支援学級です。こちらは、知的発達の遅れや意思疎通に軽度の困難がある児童・生徒が対象となりまして、一人ひとりの課題に応じた教科学習、それから自立活動を行いたいと思っております。小中一貫教育校への設置では、9年間の一貫したつながりのある教育活動における効果が見込まれると考えてございます。</p> <p>課題ですが、添付した資料の1枚目には、知的障害の特別支援学級の地図を載せております。上の地図は小学校、下の地図は中学校になります。「★」印をつけていただいているところに、知的障害の特別支援学級がございまして。特別支援学級は、区内の小学校全部にあるわけではございません。ご覧いただいておりますが、少し地域的な偏りがある状況でございます。新たに高円寺に設置することになりますと、小学校においても、中学校においても東側に偏る状況になります。こちらに設置する場合は、今ある特別支援学級の再編の検討も、あわせてやる必要があると考えているところでございます。</p> <p>次に、2番目で考えられるのが、情緒障害学級というのがございまして。こちらの情緒障害学級につきましては、知的発達に遅れがなくて、通常学級の授業に参加することができるけれども、対人関係や社会生活への適応が難しい児童・生徒が対象でございます。こちらにつきましては、近年非常にニーズが高まっております。添付した資料の2枚目になりますが、まだ情緒障害学級については、そんなに数がございません。高円寺に設置することは、区内でのバランスというところでは、非常にいいかなと考えているところでございます。</p> <p>ただ、これも周辺の状況がございまして、先立って小P協で説明させていただいたりもしましたが、東京都で「特別支援教室事業」が検討中でございます。</p> <p>こちらは、知的発達に遅れはないけれども、発達に偏りがあるというお子さんに関して、多くのお子さんがそういう状況にあるというところから、現在情緒障害学級でやっているような授業を全ての小学校の中に、「特別支援教室」という小さいものを設けて、自分の学校の中で指導ができるということを実施していくという方針が出てございます。そちらに全員を通わせるか、それとも情緒障害通級学級の機能を残していくのが、まだ検討中であります。東京都のガイドラインがこれから</p>

	<p>示されるような状況でございます。東京都が示す事業の進捗を踏まえながら、高円寺に設置する内容を検討していく必要があると考えているところでございます。</p> <p>今後につきましては、さまざま課題がございますので、学校関係者や地域の方からのご意見をお聞きした上で、検討してまいりたいと思っております。</p> <p>これとは別に、今お話しした「特別支援教室」については、全ての小学校に設置する方針がありますので、新校にも設置する予定です。</p> <p>以上でございます。よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ただいまの特別支援教育に関してのご説明を課長からいただきました。このあたりは何回か話題には出ているところだと思いますけれども、ご質問があれば、出していただければと思います。</p> <p>現時点では、特別支援学級の設置というところまでは確定だと思うんですけれども、情緒の学級ができるか、固定の知的ができるのかということについては、まだ今後の検討課題ということになるかと思っております。この場でご意見やご要望があれば、所管の課長さんもおいでいただいているので、出していただけるとありがたいです。</p>
委員	<p>1番(1)の知的障害特別支援学級についてですが、下段のほうに「小中一貫教育への設置は、9年間の一貫したつながりのある教育活動による効果が見込まれる」と。今現在でこの小中一貫における効果というのは、どんなようなことを考えられていますか。</p>
特別支援教育課長	<p>やはり知的障害のお子さんにつきましては、丁寧な指導が必要だと認識してございますし、就学前から小学校、小学校から中学校、それから中学校から高校の特別支援学校というようなところへのつなぎというのが非常に重要だということでございます。</p> <p>今の段階では、できる限り小学校の担任の先生、中学校の担任の先生がいろいろなところで連携をして、子どもの丁寧な引継ぎを行い、書類といたしましても個別の教育支援計画等々の書類も用意いたしまして、お子さんによって状況が違いますので、丁寧に指導の申し送りができる環境を整えているところでございます。今度新しく開校する新泉和泉地域の小中一貫教育校にも、新泉小には前から特別支援学級があったので継承し、今回新しく中学校のほうにも特別支援学級を設置して、連続性の確保を重点につくらせていただいております。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>ちょっとわからないので教えていただきたいんですけども、「特別支援教室」というのは、先ほど全ての学校にということだったんですが、それは小学校のみで、中学校には今のところは入らないということでしょうか。</p>
特別支援教育課長	<p>そうですね。東京都で示しているのは、「小学校に導入する」ということが明記されておりますが、中学校で同じように授業するというのが、中学生の微妙な心理状況で大丈夫かというところがあるので、モデル事業などをやりながら、今後検討していきたいと考えているところです。</p> <p>むしろ、中学校では、特別支援教室というよりは情緒の固定学級や、別のニーズがあるかと考えております。</p>

委員	イメージ的には、こちらの教室は小さいお部屋で、クールダウンするようなお部屋、教室を小学校でつくっていくということと考えるとよろしいでしょうか。
特別支援教育課長	クールダウンのお部屋という位置づけではなくて、ここに行くのと丁寧な勉強を教えてくれるとか、もしくは一人ひとりに合った勉強の仕方を教えてくれるというような説明を子どもにもしていきようになるかなと思っております。
委員	専門的な先生が全小学校に配置されるということですか。
特別支援教育課長	<p>全部の小学校に配置するというのではなくて、情緒障害学級というのが、先ほどの地図にあったように、幾つか今あります。そこにいる先生が、巡回で学校を指導して歩くというような形でございます。</p> <p>発達障害の状況がいろいろ人によって違いますので、黒板の字を写すのが不得意というような学習障害のお子さんがいれば、その子に合ったような指導、「こういうふうにやると君の勉強はもっとうまくいくよ」というようなところを教える、そういう教室でございます。</p>
委員	難しいことでよくわからないですけれども、基本的にはやっぱりこの地域に住んでいるお子さんが、この地域の学校に通えるというのが、私は望みなので、いろいろそういった小学校、中学校のこともありますが、こちらの学校に、そういった学級はつくってほしいと願っていますので、よろしくをお願いします。
会長	ありがとうございます。ほかには何か、どうぞ。
委員	ちょっと整理したいんですけれども、通常学級と、それと特別支援教室、それと、情緒学級の固定学級ができるということでもいいですか。
特別支援教育課長	<p>この特別支援教室というのは、普段は自分のクラスの中で勉強してもらいます。例えば、2年1組で普段は勉強をするんですけれども、何曜日の何時間目は、別の部屋、「スタディルームに行くんだ」ということで、特定の曜日にスタディルームに行ってお勉強をしていただきます。そのスタディルームに行くと、普段自分が教えてもらっている先生ではなくて、情緒障害学級から巡回で来た先生がその子を教えるというような形になります。これはどこの学校でもやりますので、今回新しくできる小中一貫教育校にもほかの学校と同様に設置するということが1点です。</p> <p>それとは別に、特別支援学級は全部の学校にあるわけではございません。今回、せっかく小学校と中学校が同じ建物の中で1つつながってできますので、そこにはぜひ9年間を通した教育というもののメリットを生かしたものを入れさせていただきたいと考えています。</p>
委員	そうすると、その分は小、中一緒の、1つのクラス。
特別支援教育課長	クラスは一緒ではないです。
委員	<p>小学校はこのエリア、中学校はこのエリアというわけではなく、関係なくそこに置くということですか。</p> <p>最終的にこの地域にどれぐらいのクラス数が必要なのかなと考えたときに、さっきの学童では4クラス分とられる、特別支援で何クラスとられる、結局、「何クラス必要なの」というふうになってきてしまうのかなというのがあって。</p> <p>必要に応じてつくらなければいけないクラス数というのはあると思いますが、地域</p>

	<p>的にもしかすると、馬橋と杉三にもあるものは1つにするかもしれないとか、そういうのも考えると、すごくクラス数も増やさなければいけなくなってくるかなというところが、ちょっと不安だなと思うんです。</p>
特別支援教育課長	<p>そうですね。子どもの人数は、何十人と多くはないんですけども、その子たちの学習のスペースとしては、勉強するお部屋と、小集団というかグループで活動できる少し大きめのプレイルームがあったりします。スペースとしては、少し使うという状況ではあります。</p>
委員	<p>小学校、中学校連携した固定級が新しい学校にはできるということですか。</p>
特別支援教育課長	<p>考えている選択肢としては、いわゆる知的の固定級をつくるか、情緒の通級学級か、情緒の固定学級か。</p>
委員	<p>それでは、実際に検討される部分は、固定級でしか検討はされないんですよね。通級ができるということではない。固定級と通級は一緒にやることは絶対ないですよ。</p>
特別支援教育課長	<p>情緒に関する学級と、それから知的に関する学級の2つを検討したいと思っておりますが、情緒に関しては、情緒の通級なのか、固定級なのかというのは十分議論をした上で考えていきたいというふうに思っております。</p>
委員	<p>もし、その議論の結果、そこに情緒の通級が入るとなったら、新しい学校には、固定級と情緒の通級と、特別支援教室という形になる可能性もあるという。</p>
特別支援教育課長	<p>そこは、東京都の事業ですとか、それから杉並区としての方針とか、その辺とは整合性をとれるようにはしていきたいと思っております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。いずれにせよ、今の段階で確定しているのは特別支援教室は間違いないというところです。そのほかをどうするかというのは、今後の教育委員会の検討になろうかなと思いますが、ちょっとわかりにくい部分でもあるのかと思いますので、この場でよかったら聞いていただきたいと思います。</p>
委員	<p>中学校については、特別支援教室というのは今のところ考えていらっしやらないということですけども、そうしますと、中学校を対象に、もしかしたら通級が新しい学校の中に入る可能性もあるということですか。</p>
特別支援教育課長	<p>そうですね。特別支援教室は、ちょっと置いておいていただいて。ここには、小学校にも中学校にも連続した知的の特別支援学級を置くか、もしくは情緒の関係のものを小学校、中学校で置くかの、どちらかを考えていきたいということでございます。</p>
委員	<p>情緒のほうをもしも選択した場合には、小学校と中学校と両方に対応するものができるということですか。</p>
特別支援教育課長	<p>どちらにしても、小中一貫教育校だからといって、小学生と中学生を一緒くたにして何か授業をするということはありませんので。小学校の通級学級と中学校の通級学級とか、小学校の知的障害学級と中学校の知的障害学級ということで、それは分けます。</p>
委員	<p>分けるけれども、セットではあると。</p>
特別支援教育課長	<p>そう、セットで置くつもりです。せっかく9年間の一貫性がありますから。</p>

会長	かなり整理されてきたような感じがしますが、ほかにはいかがでしょうか。
委員	確認だけさせてください。 知的固定のと、情緒の通級と、大きく2つですね。そのどちらかを採用して、新しい学校に設置するということですよね。
特別支援教育課長	皆様方から、9年間を通したものでつくるといってご意見をいただいていますので、いろいろな選択肢はあるのですが、ここに置くとしたらこのどちらかになるだろうということ考えているものでございます。
委員	阿佐中というのは、この地域は近くて、知的のG組というのが既にあって、それは多分継続されていくだろうと、すると地図を見ると、情緒が空白です。ただ地図だけ見ていけば、こういうふうに見えますが、ほかの要素もあります。そういう子どもですから、親が伴って学校に来るといようなケースもあると思います。知的障害を持っている子どもの親御さんからすれば、近いところにほしいと思うかもしれません。けど、客観的には、地図で見れば、情緒障害がバランスはいい、そんなことだと思います。 どう選択しても、皆さんが納得してもらわれる設置理由がちゃんと説明いただけるとありがたいと思います。まちの役員をしていますと、「何かしてくれ」、「ああしてくれ」と、いろいろな意見を言われます。こっちは交通整理が混乱しますので、その辺をお願いしたいということです。
特別支援教育課長	わかりました。ちゃんと説明ができるように、いろいろな状況を踏まえた上で決めていきたいと思っています。ご意見ありがとうございます。
会長	それでは、ほかにはいかがでしょうか。 では、またこれも、今後いろいろな意味で、これはどうなっているのとか、こうしたらどういう考えでしょうというようなことが出てくるかもしれません。その際は、先ほどと同じように事務局のほうに言っていただいて、事務局経由で特別支援教育課とまた協議、相談ということをさせていただければというふうに思っております。ありがとうございます。
特別支援教育課長	どうもありがとうございます。よろしく願いいたします。
会長	それでは、次の次第の4番目でございますが、「3校の交流活動について」ということで、今年も2つの小学校、1つの中学校で連携をさまざま行ってまいりました。来年度以降のことも含めまして、今回副会長の杉八小黒川校長先生より、ご説明いただければと思います。よろしく願いします。
副会長	では、3校連携の実践ということで、平成26年度どのような活動をしてきたのかというのを委員の皆さんに見ていただきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。 まず、児童・生徒の交流ですが、高円寺中と杉四小、杉八小、3校の子どもたちの交流を進めてまいりました。 高円寺中学校の運動会への参加ということで、杉四小が参加しました。ぜひ、杉八小も今後何か関わればいいなというふうに考えております。来年度以降、検討をしていく予定であります。 わくわくフェスティバルでの発表では、高円寺中の行事に、杉四小の児童が参加

	<p>しています。これについては、来年度杉八小の6年生もしくは5、6年生が参加できるといいなというふうに、話を進めているところです。</p> <p>次に3校で行った読書感想文の交流です。高円寺地域のみんなのお薦めの本ということで、自分の読んだ本をみんなに薦めています。ちょうど今、この図書室の出したところにみんなのおすすめの本が掲示してありますので、お帰りの際に見ていただければと思います。これは、高円寺中でも、杉四小でも同じ取り組みをやっていて、掲示をしてあります。</p> <p>部活体験ですが、「中学校に入ったらどんな部活があるのかな。部活をやるとしたら、どんなふうに行っているのかな」ということで、それぞれの小学校の子どもたちが部活を体験しに行っています。</p> <p>次に、杉八小で行いました「高円寺こども祭り 吹奏楽部の演奏」ということで、高円寺中の生徒と、このときは高南中の生徒も一緒に来て、別々して、さらにジョイントして、小学生とも一緒に演奏しました。</p> <p>歳末募金運動もやりました。高円寺の駅前に3校が集まりまして、北口と南口に分かれて、助け合いの募金活動を行いました。</p> <p>3学期、6年生が中学校見学に行きました。「進学したらどういう学校に行くんだろう」ということで、見学させていただきました。</p> <p>今年になって行いましたけれども、「あいさつ週間」。各校がそれぞれの持ち場を持って、地域または自分の学校の子どもたちに挨拶をしました。1週間ちょっと続けましたが、朝早くから中学校の生徒と小学校の子どもたちが一緒に取り組みました。</p> <p>高円寺地域の清掃ということで、3校が中央公園に1回集まりまして、それぞれの持ち場を清掃しました。自分たちのまち、高円寺を掃除する活動をしました。</p> <p>特色ある教育活動については、副校長先生から説明していただきます。</p>
委員	<p>杉四小では、3年生の児童が「高円寺カルタ」をつくっています。つくられたカルタは、高円寺のまちのあちこちで皆さんも既に目にしてくださっているかとは思っています。</p> <p>子どもたちが幾つかのグループに分かれて、川を調べるグループ、神社を調べるグループ、高円寺のまちを調べるグループ、学校を調べるグループ、商店街を調べるグループ、お祭りを調べるグループというふうに分かれながら、高円寺のまちを杉四小の学区域を越えて、杉八小の学区域のほうまで高円寺のまちについて調べて、それをカルタに詠んで、絵札を書いたということです。</p> <p>例えば、「高円寺おしゃれな店がいっぱいだ」とあります。この子が多分高円寺の商店街を見ていく中で、店についてこのような感想を持ったと思います。それを絵と言葉で表しています。ほかにも、パル商店街について描いたものもあります。パル商店街は杉四小の学区域ではないんですけれども、学区域以外のところまでも子どもたちは出かけて行って、自分たちが生まれ育っている高円寺というまちをさらに愛する、郷土愛というか、そういう心情が育っていくとともに、高円寺市民としてふさわしい資質が身につけていっています。</p> <p>それから、今の「高円寺カルタ」は3年生でしたけれども、4年生は「杉四カンパニー」という会社を設立して、タオルを販売するキャリア教育を行っています。</p>

	<p>先日1月11日に、商店街などでタオル販売をしました。1年間かけて、まず市場調査で、どんなニーズがあるかというようなことを実際街頭に出て、まち行く人にインタビューをとって、商品を開発していきます。次にデザインを考えて、デザインもどのデザインがいいかということで、地域の人、保護者の方に選んでいただきます。その考えたデザインを実際タオルにするんですけども、今年は昨年度と違って、ハンカチサイズのタオルになりました。それも子どもたちが、そのほうが使いやすいのではないかとということで、案を出しています。おかげさまで全部売り切れました。これもキャリア教育として将来自分が生きていくということを考えるいきっかけの勉強になっています。</p>
副会長	<p>ありがとうございます。では、杉八小についてお願いします。</p>
委員	<p>杉八小です。</p> <p>まず、地元の宝扇会という、おばあさまたちが美化活動をされているということで、3年生が、学区域のいろいろなところをまち探検に行って、「ここはこういうふうになっているんだ」、「ここにはちょっとごみが多いな」とか、「ここをきれいにしたいな」ということで、いろいろな課題認識を持ちます。それで、桃園川、暗渠にはなっているんですが、緑道というところで、そこが皆さんの癒しの場所とか、この環境をもう少しよくしたいなという課題に対して、では自分たちが何ができるのかということを考えまして、宝扇会の方々と知り合いになって、「じゃあ、一緒にやろうじゃないか」ということで、緑道をきれいにする活動をしています。</p> <p>本校では、総合的な学習の時間に、3年生、4年生、5年生、6年生というふうに、系統的に地元、まちを見直す、そして自分たちがまちに対して何ができるのかということを基本として、学習を展開しております。</p> <p>4年生は、エコ活動をするということで、先ほど杉四小にもありましたように、企業化というのですか、カンパニーを立ち上げてまして、杉八小では手拭いをつくりました。手拭いをつくるに当たって、グループで図案から自分たちで考えて、手拭いとしてどの図案がいいのか品評会を開いて、関わってくれた商店街の方や手拭い会社の人、教育委員会の人たちに評価をしてもらって、図案を決め、あとは何枚売れたら利益が上がるのかというような商売の視点も取り入れて活動を行い、2月5日半日ぐらいパル商店街で手拭いを売る活動をしました。</p> <p>子どもたちは200枚ぐらいについて、1枚500円だったら何とかいけるんじゃないかということで、さまざまな人にご協力いただきました。パル商店街で売っているときには、杉八小の第1回の卒業生の方がたまたま通りかかって、「君たち頑張っているね。じゃ、買ってあげよう」と言って買って来て、子どもたちは本当にうれしそうに、その方と関わっていました。</p> <p>高円寺は商業という面もありますので、杉四小と一緒にあって、小小連携交流として、この活動も広げていければなと考えております。</p> <p>あと、6年生が自分たちのまちの大きなイベントである阿波踊りに何とか貢献できることはないかという視点で、莫大なごみが阿波踊りのときに出ることに気づきました。とてもすばらしい阿波踊りというお祭りなんですが、その裏側には大きな問題があって、何とかそこで自分たちが解決できる糸口はないかということで、連と連の間に看板を持って、観客の方々に「分別をしてください」、「減量してくださ</p>

	<p>い」というようなことを呼びかけながら回収活動を行っています。</p> <p>さらに、高円寺中や杉四小と同じような視点で、キャリア教育としてパルの大黒屋さんにいろいろご協力を得たり、学校支援本部の方々により、11の体験場所を用意していただきました。本当に多種多様なところで、6年生が経験をさせていたでています。こういうところで、自分たちが将来どういう職業につきたいのか、働いている方々がどのようなスタンスでお仕事をされているかということを実体験として学ぶ機会を提供していただいています。</p> <p>高円寺というまちと子どもたちが総合という勉強を仲立ちとして、すごく体験的に勉強させていただいているということは本当にありがたいことだし、この先子どもたちが高円寺のまちのために何ができるのかなということを考えていける子どもに育っていくのではないかとというふうに期待しております。</p> <p>杉八は以上です。</p>
副会長	では、高円寺中学校、お願いします。
委員	<p>高円寺中です。</p> <p>高円寺中の特色ある教育活動としましては、「心で聴こう！手のひらが奏でる区歌プロジェクト」というものがございます。</p> <p>平成 25 年度には、松谷コーディネーターのご支援もいただきまして、手話を使いながら校歌を歌うということで、杉並区手話サークルの「杉の会」の皆様のご協力もいただきまして取り組みました。今年度は、区歌のプロジェクトに取り組んでおります。</p> <p>実際、子どもたちには、障害を持たれている方とも分け隔てなく、いわゆる心のバリアフリーとでも言いますか、分け隔てのない子どもたちに育ってほしいですし、中学校をこれから卒業して、義務教育を終えて社会に出て行くわけですけれども、いろいろな人々と積極的に関わって、よりよい社会を築いていってほしいという思いで、このプロジェクトを今やっております。10月の下旬のわくわくフェスティバルで発表もしております。</p> <p>手話は、3校での特色ということでも挙げております。実際、杉四小、杉八小のほうでは、区歌や校歌を手話で取り組んでいるということはやっておりますが、音楽の授業とかそういった部分で取り入れていらっしゃるし、授業だけでなく、そういった障害者との触れ合いの中で学びとるような活動をしております。</p> <p>次年度は「広げよう、高円寺、インクルーシブプロジェクト」として、一体化をいわゆる系統立てて、取り組みをさらに深めていこうと考えております。</p> <p>続いて、杉四小、杉八小からの説明でもありましたように、キャリア教育として地元の事業所の方々をお願いをしまして、職場体験を中学校の場合は5日間させていただいております。</p> <p>それも、小学校で体験したものから、さらに深みを増すと言いますか、いろいろな体験を通して、この地元、高円寺の中で育っていき、大人になって、また次の世代の子どもたちを育てていく、そういう大人になってほしいという思いで、この取り組みを続けております。</p> <p>また、杉八小の説明にありました環境教育について、日本建築学会の方々にご協力をいただいて、E S Dの視点を取り入れた環境教育に取り組んでいますが、今年</p>

	<p>度からは、一貫教育として中学校でも取り組むこととしました。まだ模索段階で、全学年において計画的にできているというところではないんですけれども、3月9日、本校体育館で、中学校3年生が、杉八小で学ぶものをさらに深めて、より発展させた形で取り組むような運びとなりました。丸1日やっておりますので、もしご都合のよろしい方がいらっしゃいましたら、少しでものぞいていただければありがたいなと思っておりますので、ぜひ足をお運びくださいますよう、よろしくお願い致します。</p> <p>次年度は、この3校の特色をさらに系統立てて、31年の開校までに、子どもたちにどれだけ充実した教育活動を展開できるかというところで、昨日もでしたが、3校の教員たちで集まって、本当に教育をどうする、いわゆる授業とか、カリキュラムの部分も検討しています。</p> <p>また、今現在も高円寺中の教員が、杉四小、杉八小のほうに、限られた教科ですけれども、実際に行って小学校の授業に、T2として入らせていただいています。そこから中学の教員が、小学校の授業などを学びとらせていただく機会を持っております。そういった中から、小と中の、いわゆる教育の中でのうまいつながりができるよう模索しているところでございます。以上です。</p>
副会長	<p>ありがとうございました。副校長先生ありがとうございました。</p> <p>それでは、ブレイクタイムということで、ちょっとおつき合ください。</p> <p>昭和30年ごろ「三種の神器」なんていうと、思い浮かびますでしょうか。生まれていないなという人も多いかと思いますが。</p> <p>まず、洗濯機です。その頃は、ローラーがついて、ぐりぐりやると絞れるものですね。それと、冷蔵庫。そして、テレビ。足がついているチャンネルのテレビですけれども、最近そういうのは見なくなりました。</p> <p>10年たつと、「3C」なんていうふうに言われました。わかりますか。</p> <p>クーラーです。窓枠についています。次に、車、カーです。もう1つ、カラーテレビです。うちにはなかったんですけれども、こういったものが「3C」なんていうふうに、40年ごろは言われていました。</p> <p>これからの教育における三種の神器。それでは、教育界ではどうなのか、学校ではどうなのかということを考えます。</p> <p>まず、やっぱりこれです。「特別支援教育」。先ほども所管の課長から説明いただきましたが、この懇談会の中でも、基本的な考え方として特別支援教育が出ていたと思います。あと、「ICTの活用」。杉並区も、もうあと何年かすると、全員にタブレットパソコンを配れるんじゃないかという話もちらほら聞こえてきております。それと、「英語活動」。外国語活動です。これらの3つが、これから日本が歩んでいく中で、「三種の神器」になるんじゃないかなと思っていたら、ついこの間、「道徳の教科化」という提言も出てきました。やはり、我々も勉強していかなければいけないと考えさせられる内容です。</p> <p>これまで、子どもたちと同じように、教職員も3校で連携してまいりました。</p> <p>中学校の先生による出張授業ということで、杉八小には来てもらっていますし、杉四小では中学校のほうへ行って授業を受けています。</p> <p>一番のメインは、「三校合同研究会」というのを今年度から始めました。研究授</p>

業を年間6本行いまして、授業後に研究協議会を必ず行って、小中の先生たちで、小学校の授業、中学校の授業はどうだったのかということをお勉強してまいりました。

その三校合同研究会の研究テーマは、「かかわりをつなぐで育つ高円寺のなかま～教科の特性を生かした言語活動充実～」ということで進めてきました。その中で、一番最初に教員同士で話し合ったときに、児童・生徒につけたい力は、やはり「生きる力」だろうと。「生きる力」をつけてあげたい。では、その「生きる力」って何なのか。幅広い知識、変化に対応する力、的確な判断力、柔軟な思考力、理解を得る表現力、このようなことがこれから生きていく子どもたちにつけてあげたいと考えて、取り組んでまいりました。その土台となるものは、「基礎的な知識・技能、主体的に学び続けられる力」だと、考えてまいりました。

その組織ですが、3つの分科会を立ち上げました。A、B、Cに分けまして、中学校と小学校、3校が入り混じった分科会の中で授業をつくり上げ、研究授業を行い、協議会を行ってまいりました。

では、先ほどから言っている言語活動というのは何なのか。各教科で学習の目標を達成し、学力を一層伸ばすために、各強化の特性を生かした言語活動を取り入れています。例えば、国語では、文章の構成に着目しながら、説明文を読み、学習のまとめとして説明したり、自分で説明文を書いたりしています。説明文の中で、自分の考えたことなどを、みんなの前で説明したりもしています。

他にも、理科では、予想を立てて、実験を行い、結果を友達と発表しあい、課題に対する結論を導き出したりしています。2人でのペア学習で、予想したことや実験の内容について意見を交換したりします。

また、英語では、学習したセンテンスを用いて友達とコミュニケーションを図り、相手の考えや表現方法を理解するという活動で、学習したこと、センテンスについて友達とやりとりをするという活動をしています。

この研究では、小中の校種を超え、協働して授業づくりをし、言語活動の充実を図るため、授業研究や協議会を通して日々研さんしてきました。手前みそなんですけれども、成果としては、授業力の向上、言語活動の理解につながったんじゃないかなと思っています。

しかし、一番の成果は、研究同人としての結びつき。3校の教員が、協力して行ってきたことによって、結びつきを深くしていったことだと考えております。

来年度、平成27年度の研修の柱を考えました。まず、児童・生徒・教員による交流の充実。これは今までも行ってきたことなので、さらなる充実を目指していきます。もう1本の柱は、3校の教育内容のすり合わせ。31年の開校を目指して、3校の教育内容をみんなで見合っ、その共通点や課題等をみんなで見出していこうと、昨日の3校合同研究会で方向性を確認したところです。

高円寺地域の新しい学校づくりの組織イメージとして、3校の教員がどういうふうに進めていくか考えました。

まず土台にあるのは、地域や保護者の願い。その中に、新しい学校づくり懇談会があって、その中に3校の学校がある。小中合同研究推進委員会が3校を取りまとめ、その下に3つの分科会を置きました。教務分科会、生活指導分科会、交流特活

	<p>部会ということで、来年度はこの3つの分科会を通して研究を進めていきたいというふうに考えています。</p> <p>開校までのスケジュール。これも昨日3校の先生方にお話したんですけれども、まず、新しい学校づくり懇談会で、教育方針や学校名・校歌・校章について検討していきます。また、教育委員会として、学校づくりのもの、側をどうしていくかということで、基本設計・実施設計をして、建築に入っていく。そして、研究の柱の1本であります児童・生徒のさらなる交流。そして教員は、27年度は教育内容のすり合わせを行い、1年後に組織をまた変えます。改変して、カリキュラムの作成し、その後は1年間直前準備ということで、余裕を持たすような形で進めていきましようかと確認をしました。</p> <p>各学年の6つと3つの9つの歯車、ギアがあるとします。その間、真ん中に大人の力、懇談会や地域、保護者または教員の力で9つのギアを回していこうと思っております。</p> <p>おわりに、杉四小が「4」です。杉八小は「8」です。では、高円寺中は何でしょう。幾つでしょう。「1」なんです。これは、行政番号とあって、学校に番号がついています。それを足しますと「4+8+1」ということで「13」。西洋のほうでは忌み嫌われる「13」ですけども、これは大好きな数字でして、その理由は、素数なんです。自身と1以外に約数がない。自分にしか約数がないということで、「我らの学校をオンリーワンの学校に」という思いでつくってまいりたいと考えております。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。今、副会長からご説明いただきましたが、何かこの場で、質問等ございましたらお受けできればと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>教員の研究会なもので、どうしても教務や生活指導など、なじみのない言葉が出てまいりますが、このあたりのところは開校に向けてではないですけども、しっかりやっていかなければいけない中身かなと思っております。</p> <p>ですので、懇談会のお考えを受けながら、学校のほうでもそれぞれ準備を少しずつ進めていければと思っておりますので、今なくても、何かありましたら、各学校のほうに言っていただければ、お答えできると思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>ニューズレターの第4号についても、今、最終校正段階になっておりますので、こちらのほうもでき上がりましたら、お配りする予定です。</p> <p>では、以上で3校の交流については終わりにします。</p> <p>では、次第の「その他」ということとなりますが、事務局からお願いできますでしょうか。</p>
<p>新しい学校づくり係長</p>	<p>本日も、さまざまなご質問、ご意見をいただきましてありがとうございました。</p> <p>事務連絡になります。12月の第8回懇談会会議録の要旨につきましては、教育委員会のホームページのほうにアップさせていただいております。</p> <p>あと、これはご報告になるわけですけども、1月の中旬に、ちょうど懇談会の合い間に、『新しい学校づくりニュース』の第2号を発行いたしまして、委員の皆様には郵送をさせていただきました。</p>

	<p>また、学校評議員、学校を通じて保護者の皆様、あと町会、自治会のほうにもご協力いただいて、地域に対しまして、今の懇談会の進捗状況を周知できたのではないかとこのように思っております。</p> <p>最後に、本日、この懇談会が今年度最後ということになりますので。次の懇談会ですけれども、5月中旬ぐらいを考えています。4月に入ってから、また日程調整をさせていただきまして、来年度の最初の懇談会を設定させていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>来年度につきましては、基本設計作業の時期ということもあって、新校舎の設計の部分についてを中心に、委員の皆様からまたご意見のほうを頂戴していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>私からは以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、事務局からご説明いただきましたが、何かご質問はございますか。</p> <p>では、本日予定されている次第につきましては以上で終了でございますが、委員の皆様から何か、今年度最後ということ、何かございましたら。よろしいですか。</p> <p>わかりました。それでは、何かございましたら、事務局のほうにお伝えいただければというふうに思います。</p> <p>長くなって申しわけありません。以上で、第9回目の懇談会を終了いたします。ありがとうございました。</p>